愛知県蒲郡市の温泉郷「三谷温泉」で身も心も“ととのう”体験を。

温泉旅館 × 現代アートの芸術祭「ととのう温泉美術館」
2023 年 1 月 21 日（土）開幕

三谷温泉
アートプロジェクト
MIYA ONSEN ART PROJECT

ととの
TO TO
う温泉
NO U
美術館

愛知県蒲郡市 三河湾を望む風光明媚な場所にある三谷温泉の5旅館を舞台に、現代アートの芸術祭を開催。
心身のリラックスを指す「ととのう」をキーワードに、「歴史ある温泉街」「豪奢なしつらえの大型旅館」「郷愁を誘う客室」といった「非日常の空間」に、約40組の作家による現代アートをインストールします。
昭和の趣を持つ歴史を重ねた旅館や温泉街は「非日常」であり、感性を刺激するアート鑑賞もまた「非日常」です。
長い時間が堆積してきた、どこか郷愁を誘う旅館やホテルの空間と、現代アートの空間を繰り返し行き来する。“ととのう温泉美術館”では、まるでサウナと水風呂の温冷交代浴のように、過去と現在・未来を行き来することで、鑑賞者に「ととのう」体験を提供します。

「ととのう温泉美術館」概要

【名称】 ととのう温泉美術館
【会期】 2023年1月21日(土)～2月19日(日) ※休館日：火・水・木
午前11時～午後5時
【場所】 ホテル明山荘、三谷温泉ひがきホテル、松風園、ホテル三河海陽閣、平野屋
【主催】 三谷温泉アートプロジェクト実行委員会（三谷温泉旅館振興協同組合）
【後援】 愛知県、蒲郡市
【協力】 愛知県飲食生活衛生同業組合、KAB Library and Residency、蒲郡市観光協会、蒲郡市シティセールス推進協議会、蒲郡市文化協会、蒲郡商工会議所、KENJI TAKI GALLERY、社会福祉法人楽笑、原田真千子、ぺちゃくちゃないと名古屋、森田了、山勝染工株式会社
【公式ホームページ】 https://www.miyaonsen.com
【公式Instagram】 https://www.instagram.com/miyaonsen_art/
【チケット】 前売1,800円（日帰り温泉入浴券付） ※販売期間：2023年1月20日（金）23:59まで
当日2,000円（日帰り温泉入浴券付） ※小学生以下無料（日帰り入浴料別途）
公式ホームページ、チケットのページからご購入いただけます。 会期中は各会場でも販売します。

芸術監督	武藤勇
プロデューサー	藤田聖人
マネージメントディレクター	田原由紀子
コーディネーター	児玉真伍
ゲストキュレーター	嘉藤笑子
デザイン	江尻健太、Nagao Design
会場設計	森下建築工房(森下大成、沖野希美、武井菜帆、立松菜那穂)
運営協力	Mikawa Art Center
企画協力	LIVERARY
企画・運営ディレクション	N-mark

三谷温泉とは

三谷温泉は、愛知県蒲郡市の三河湾を望む風光明媚な場所にあります。温泉の由来は奈良時代に行基が発見したと伝えられ、明治時代からは名古屋の奥座敷の保養地として栄えてきました。
地元の産業は古くから繊維業が盛んであり、1888 年に旧国鉄蒲郡駅が開業した歴史からも当時の日本にとってこの場所が重要視されていたことを垣間見ることができます。その繊維業が最も隆盛した1940 年代後半には三谷温泉地区には小さな旅館や料亭が点在し、地元の機織屋の旦那衆が集まり、夜な夜な宴会やお座敷遊びを愉しむ、粋で雅びな時間を過ごしていました。

三河湾から望む三谷温泉

その後の高度経済成長期には東名高速道路、東海道新幹線といった交通網の整備により、大都市圏からの団体バスを利用したお客様が増え、バブル景気の慰安旅行ブームも相まって大いに賑わいました。泉質の違う天然温泉が楽しめる全国的にも珍しい温泉地として、県内外からのお客様に親しまれています。

昭和 30 年代の三谷温泉海岸からの遠望

慰安旅行が盛んだった頃の三谷温泉での宴会風景

芸術祭開催の背景

景気低迷やコロナ禍により厳しい状況が続くなか、三谷温泉を盛り上げるために私たちは何ができるかを考え続けていました。その中で気づいたことは、移動制限、外出自粛が呼びかけられ、日常や人の価値観が大きく変化している今も、昔も、旅館という場所はお客様が「非日常」を楽しむために訪れる空間であること、そして今まで三谷温泉を訪れてくださったお客様が体験してきた非日常が積み重なって、今の姿があるということでした。歴史を重ねた旅館や温泉街は「非日常」であり、感性を刺激するアート鑑賞もまた「非日常」です。一見すると異質な組み合わせかもしれませんが、この共通点を頼りに「芸術祭」を開催することで、地元の皆さまにも、今まで三谷温泉に訪れたことがないという人にも、ぜひ三谷温泉を知って欲しいと思い企画しました。

芸術監督・キュレーター紹介

芸術監督 武藤 勇 / Muto Isamu

1974 年 愛知県生まれ。
1997 年 名古屋芸術大学・造形実験コース卒業、1998 年 CCA 北九州アーティストリサーチコース終了。2009 年 情報科学芸術大学院大学（IAMAS）メディア表現研究科修了。1998 年よりアートの企画運営を幅広く手掛ける『N-mark』を開始。主なプロジェクトに「ミーティングキャラバン」、「名港ミュージアムタウン」、「くうちゅう美術館」「中川運河リミコライン・アートプロジェクト」「黄金 4422.bldg（こがね 4422 びるでぃんぐ）」など野外展まで幅広いアートディレクションを行う。
2020 年のあいちトリエンナーレの「あいちトリエンナーレサポーターズクラブ」のコーディネート、その後「アートラボあいち」の運営に携わる。サポーターズクラブから発生したイベントを機に、アートを介した空きビルの新たな利活用プロジェクトが始まる。
2012 年、名古屋市内の問屋街長者町の空きビルを改修しクリエイティブな会社や団体が入居する「長者町トランジットビル」や「長者町コットンビル」の立ち上げ、運営に携わる。以後、現在に至るまで、名古屋・愛知のアートシーンを先導する活動を続けている。

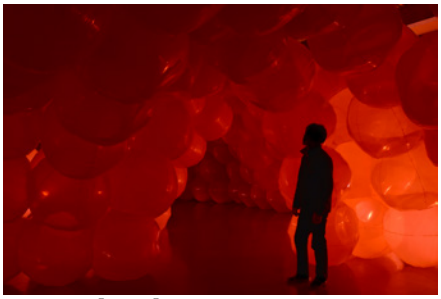
ゲストキュレーター 嘉藤 笑子 / Kato Emiko

1995 年ロンドン大学コートールド美術研究機関修士研究生修了。1993 年 6 月、シティ大学大学院文化政策運営学部博物館美術館運営学科修士取得。
Art Autonomy Network[AAN]（2005－）を組織し、国内外のアートプロジェクトのアーカイヴやアーティストネットワークを手掛ける。日本橋 NICA にて「DIALOGUES 国際現代美術展」（2015・2017）などを多数企画している。2020 年 1 月に KAB Library and Residency（以下 KAB）という宿泊型の会員制図書館を開設した。コロナ禍でも「すみだ向島 EXPO」（2020・21・22）に KAB として、展覧会、読書会、ワークショップの多岐にわたる活動を行っている。2001 年から墨田区、横浜、沖縄、神山などにおいて地域プロジェクトに数多く携わっている。KAIR 神山アーティスト・イン・レジデンス（徳島県神山町）の評価委員（2005 ～ 2019）。木村崇人「こもれび」プロジェクト 2008、カナダ・トロントの芸術祭 Big on Bloor にて Lantern Origami Workshop2018 など学生や一般受講生との共同事業を企画運営。現在、文化資源学会／日本文化政策学会会員、向島学会副理事長。「藝術英語塾」主宰。

作家・作品紹介

三上 俊希 / MIKAMI Toshiki

inner #7［2022］

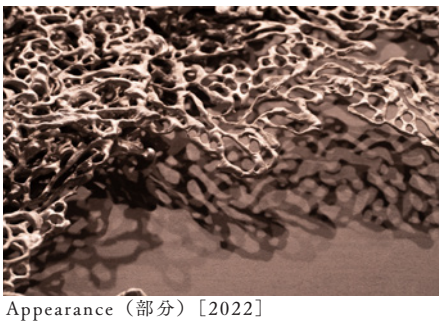


Breath Ⅲ［2018］

生物の内部で密かに動く臓器の動きや脈動を作品に与えることで、「生命とは何か？」という問いの答えに近づけるのではないだろうかと考えているアーティスト。今回は呼吸するかのようにゆっくり動く体内のような赤い巨大な空間の中に入ることができる体験型の作品を展示する予定です。

本郷 芳哉 / HONGO Yoshiya

Appearance（仁和寺）［2022］

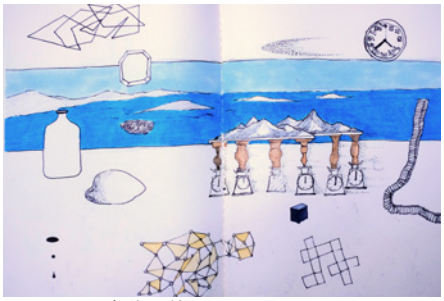


Appearance（部分）［2022］

「存在」、「関係性」、「時間」、「記憶」、「自然」などの視座から素材と向き合い、制作していくことで得ることのできる体験的な感覚を通して、「人が生きるとは何か。」という問いについて思想し、彫刻を制作。今回は物質そのもの存在を変容させていくことでその周囲にある世界との関わりを創り出していく「Appearance」シリーズを展示予定です。

竹田 尚史 / TAKEDA Hisashi

私は山になって眠る［2019］



ととのう温泉美術館のためのイメージドローイング

空間、時間や質量を用いて、世界を表現しようと試みているアーティスト。たびたび出てくるモチーフの一つ「測り」は想像力の世界と現実を結ぶものとして扱われます。今回もこの測りや三谷温泉の島々をモチーフに、松風園の湯上りに佇む、くつろぎの空間から見える島々の絶景から、つながる想像の世界の作品を試みます。

三輪途道 / MIWA michiyo、三輪洸旗 / MIWA koki

ドローイング［2021］
撮影：木暮伸也

アカシヤの木の下で［2020］

三輪途道 肖像彫刻に長年向き合う。近年は目が見えなくなり、粘土で作品を制作。色も使えず、漆の黒に思いを乗せる。「私は作り続けます。表現は私の人生そのものだからです。」**三輪洸旗** 群馬の自然豊かな山村に工房を構え彫刻や絵画を制作。木彫の植物やチューリップは依り代としての役目を担い、絵の背景やチューリップの花弁の内には水の顕現。新たな空間には自然がまるで黙秘してきたような世界が現前となる。

D.D.（今村哲＋染谷亜里可）/ D.D. (IMAMURA tetsu＋SOMEYA arika)

2つで三人［2013］/ 撮影：怡土鉄夫

王様だけがパンツを履く［2021］

2011年より、今村哲＋染谷亜里可を中心としたアーティストユニット“D.D.”として、体験型インスタレーションを制作。ととのう温泉美術館では、展望台という見下ろす空間に、建築モデルでもあり、家具でもある体験できる構造体を制作します。建築家アルド・ロッシが自伝で語る「食卓のポットを内に入ることのできる建物として思い浮かべる」ような、一つのものに違うモジュールを入れ込んだ異化作用を感じてください

小畑亮吾 / Kobata Ryogo

夕刻のヴァイオリン弾き
（撮影：福島直樹）

夕刻のヴァイオリン弾き
（撮影：福島直樹）

音楽家 / 作曲家 /ヴァイオリン弾き
ヴァイオリン一梃弾き語り。リアルタイムサンプリングを用いたプレイを得意とするストリングストロニカ音楽家。
映像や絵画、舞台、植物といった様々な分野とのコラボレーションやインプロビゼーションなど全環境型パフォーマンスを行う。
また、自身を再生装置とした時報インスタレーション『夕刻のヴァイオリン弾き』を各地で行い生演奏に触れる場を拡張し続けている。

参加予定作家

市川岳人、大久保拓弥、大橋裕之、カリヲ、Clemens Metzler、君平、劇団うりんこ、このよのはる＋Mikawa Art Center[MAC]、小畑亮吾、近藤萌、重森三明、設楽陸、鈴木優作、ZECS、台湾アートロビー（康雅筑、夏愛華、曾上杰、陳奕彰、潘重光、呂文）、竹田尚史、Chiye Ryang、D.D.（今村哲＋染谷亜里可）、長野櫻子、Neil Leonard、西原尚、西松秀祐、東本伊代、平山亮太、福田良亮、札本彩子、本郷芳哉、マリーリョウ、三上俊希、水谷篤司、宮本宗、三輪洸旗、三輪途道、八嶋有司、安田佐智種、吉村大地

※五十音順、敬称略

開催予定イベント

ととのう温泉美術館開催記者発表 in 東京

【日時】2022年12月7日（水）19時～20時30分（受付開始：18時30分）
【場所】アーツ千代田3331 コミュニティスペース
〒101-0021 東京都千代田区外神田６丁目11－14
【参加方法】事前申し込み制 ※本リリースの最後に申込書を添付しています。
【登壇予定】武藤勇(芸術監督)、嘉藤笑子(ゲストキュレーター)、杉山和弘（実行委員長）、本郷芳哉(作家)、小畑亮吾(作家)
大野智子（MC）

ぺちゃくちゃないと名古屋 vol.37 蒲郡スペシャル

【日時】2022年12月17日（土）開演17時～（開場：16時30分）
【場所】801 project
名古屋市千種区内山3-25-6
千種ターミナルビルトーカンマンション千種801号室
【参加費】2,000円

AUTHORISED CITY PechaKucha 20×20 IMAGES SECONDS

「ととのう温泉美術館」プレスプレビュー

【日時】2023 年 1 月 20 日（金）午前 11 時～午後 5 時

【会場】ホテル明山荘、三谷温泉ひがきホテル、松風園、ホテル三河海陽閣、平野屋

【概要】「ととのう温泉美術館」について、広く周知し、多くの人にご来場いただくため、報道機関の方、イベントをご支援いただいた方をご招待し、事前内覧会を行います。当日は芸術監督やキュレーターによる会場ツアーを開催します。詳細・申し込み方法については、2022 年 12 月初旬にプレスリリース、及び公式ホームページにてご案内予定です。

芸術監督、キュレーターによる「ととのう温泉美術館」プレスツアー

【日時】2023年1月20日（金）

【概要】芸術監督によるツアーを開催します。行程表、申込書については12月上旬に公式サイト及びプレスリリースにて発表予定。事前申込制。

【12/31まで】クラウドファンディング挑戦中！

蒲郡市長 鈴木 寿明さん応援コメント

蒲郡市は、海と山に囲まれた風光明媚な観光地であり、景観だけでなく趣の異なる４つの温泉郷を持った魅力ある湯のまちでございます。湯のまちの代表の１つである三谷温泉で、現代アーティストの作品が展示される「ととのう温泉美術館」が開催されることは、皆様に蒲郡の魅力を感じていただく良い機会になると大変期待するものでございます。芸術・文化は、地域や世代を問わず、私たちの心に豊かさや安らぎ、生きる活力をもたらしてくれます。湯も同様です。少しお疲れの方や癒されたいと感じている方に、ぜひ、オーシャンビューの美しい温泉と現代アートで、身も心も「ととのう」体験をしていただきたいと思います。皆様のお越しを心よりお待ち申しあげております。

（クラウドファンディングプロジェクトページより抜粋）

ととのう温泉美術館
TETONOU ONSEN ARTMUSEUM
CAMPFIRE
クラウドファンディング公開中

本リリースについての問い合わせについて

三谷温泉アートプロジェクト実行委員会　広報（太田・藤田）
TEL：080-5546-7086　藤田（問い合わせ時間：平日 9 時～17 時）
MAIL：press@miyaonsen.com

記者発表ご取材お申し込み用紙

申込先　Email：press@miyaonsen.com
FAX ：0533-66-1738
締切　2022年12月02日（金）中

■ 日時　2022 年 12 月 07 日（水）19：00～20：30（受付開始 18：30）

■ 会場　アーツ千代田 3331　コミュニティスペース
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11－14

■ 所要時間　約 90 分程度

貴社名：

媒体名・ご所属：

お名前：
※ご同伴の方含む

携帯電話番号：
※緊急時のご連絡先として、当日ご連絡が可能な電話番号（代表の方 1 名）をご記入ください

Email：

ご取材：　スチール　　台　　ムービー　　台

※新型コロナウイルス感染防止のため、会場内はマスクをご着用ください。当日は検温、手指の消毒などにご協力をお願いします。
※当日は受付にて、お名刺を 1 枚頂戴いたします。予めご準備の上ご来場ください。